

鈴木貫太郎記念館の概要

1. 所在地 野田市関宿町1273ほか
2. 敷地面積 3,084.25㎡ (登記簿による※駐車場及び集乳所を除く)
3. 建築年代 昭和38年
4. 建築面積 268.58㎡ (リーフレットによる)
5. 構造 鉄筋コンクリート造 平屋建
6. 発注者 財団法人 鈴木貫太郎記念会 (鈴木貫太郎記念館建設委員会)

名誉会長	千葉県知事	柴田 等
会 長	野田市長	戸辺織太郎
副会長	関宿町長	須賀清八
	流山町長	田中芳夫
	先心会代表	浜野政三
7. 設計者 創建築設計事務所
8. 請負者 東京社寺工務店
9. 建築費 建設費1,548万円
(うち建築費1,200万円、雑費348万円)
10. 補助金及び寄付金

県補助金	200万円	
县市町村負担金	567万円	
寄付金	781万円	
	関宿町	200万円
	野田市	100万円
	大都工業株式会社	500万円
	千秋社	100万円
	東武鉄道株式会社	50万円
	その他	281万円
基 金	キッコーマン醤油株式会社	2,000万円

1 1. 建設及び開館の経緯

- 昭和29年 鈴木貫太郎追悼会の席において、吉田茂元首相の発案により「鈴木貫太郎記念会」が結成される。
- 昭和35年 地元を中心に記念館建設の機運が高まる。
- 昭和37年 「鈴木貫太郎記念会」を財団法人とし、建設費の資金を募る。記念館建物・敷地について関宿町議会が寄付受納可決する。着工。
- 昭和38年 記念館開館。
- 昭和41年 管理・運営が関宿町に移る。
キッコーマン醤油株式会社から寄付受入れ、基金とする。

1 2. 建築物の評価

記念館の建築物は、建築当時の最先端の技術と洗練されたデザインにより設計されたものである。昭和30年代の建築物の指標となるもので、文化財的価値を有するものである。国登録有形文化財への登録は十分可能である。

- ※実査者 金出ミチル（千葉県文化財保護審議会委員・工学博士）
大橋智子（復興小学校研究会会員・一級建築士）

1 3. 学芸員所見

鈴木貫太郎記念館を建設した「鈴木貫太郎記念会」のメンバーには、貫太郎翁と昵懇であった「先心会」をはじめとした地元の人々のほかに、千葉県知事を筆頭として野田市長や関宿町長など錚々たる顔ぶれが名を連ねている。また、その建設費には、県補助金や市町村負担金に加え自治体や企業などからの巨額の寄付金が集められており、開館後の運営費に至ってはキッコーマン(株)から2000万円（現在の価値に換算すると2～3億円か）もの寄付が寄せられている。これらは、地域の資料館建設としては極めて異例のことである。その背景には、記念館建設の端緒となった「鈴木貫太郎記念会」結成を発案した吉田茂元首相の貫太郎翁への敬愛の念が看取でき、その想いは建設にも伝わり先進的な技術やデザインを採り入れた優れた建築物として具現化されたともいえる。

貫太郎翁亡き後、一人関宿の地にとどまり戦後日本の復興と酪農による関宿の振興を見守ったタカ夫人は、晩年、関宿小学校の児童とともに貫太郎翁の功績をたたえるこの記念館を背景に卒業写真を撮影したという。タカ夫人と地元の人々との思い出の建物でもある記念館は、現在では歴史的建築物として昭和30年代の建築物の指標となる文化財的価値を持つに至り、後世に守り伝えるべき建築物といえる。このことから新館建設とともに既存建築物の修繕を行い、文化財資源として保護し、観光資源として活用することが最善の策と考える。